

第71号

発行日 令和8年新春号

曹洞宗 天祐山 公田院 仁叟寺

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

大本山總持寺監院 仁叟寺住職 年頭挨拶



両
年

敬
頌
新
禧



曹洞宗大本山總持寺貫首 石附周行大禪師猯下と
渡辺啓司監院老師（於、鶴見大学歯学部病院）

にんもくへいちよく

【忍黙平直】 〈黙って耐えひたすら愚直に生きる〉

令和8年、改歳令辰に当り、年頭の挨拶を申し上げます。

仁叟寺から大本山總持寺に赴任して5年目となりました。瑩峨御両尊様にお仕え、貫首石附禪師猯下のもとで、本山内外の多岐に渡る案件処理の職責を果たす毎日です。各地で様々な方々とお会いし、多方面より大勢の皆様方のご協力を仰ぎながら、多忙な日常を過ごさせていただいております。

尚、ご心配いただいております体調も、三度に亘る入院治療後は、再発等も無く、お陰様で健康状態を保っております。仏祖と歴代住職、先代師匠と母の仏恩と感謝しております。

仁叟寺も龍道住職代行が東奔西走し、護持運営に当たり、次男信永院俊司住職や法類寺院のご法助を頂戴し、妻の一意専心の支えにより、万端順調に進んでおり、有難い限りです。特に矢島総代長を筆頭に総代人世話人、檀信徒各位には篤き信心をもって寺門護持に特段のご理解ご協力を賜り、誠に感謝に堪えません。住職不在が続きますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

本年も皆様方の家内安穩と萬福多幸を心より祈念いたします。

令和8年

仁叟寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4～1/7 年始挨拶
- 1/10 年賀寺例
- 2/3 大節分会
- 2/15 釈尊涅槃会
- 3/8 大般若会/大施食会
- 3/17～3/23 春季彼岸会
- 3/22 観桜供養祭
- 4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 7/13～7/16 新暦盂蘭盆会
- 7月下旬(1泊2日)
第43回子供禪の集い
- 8/10 中元寺例
- 8/13～8/16 盂蘭盆会
- 9/20～9/26 秋季彼岸会
- 11月 檀信徒研修旅行
- 12/8 釈尊成道会
- 12/10 歳暮寺例
- 12/31 除夜会

- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古
- ※隔週土曜日 華道教室
- ※毎月最終土曜日 ヨガ教室

「お寺の門をたたいてみませんか」

令和8年(2026)

「お寺の門をたたいてみませんか」



坐禅会 毎週水曜日 午後7時より開催

小学生20人 座禅に挑戦

高橋 禅に傾いてもう「子供達の集い」が20日、高橋吉井町神保の仁叟寺（縁辺啓司住職）で始まった。県内外の小学生20人が1と2日での座禅や呼吸を体験している。子どもたちは足や手の組み方を教わり、座禅に挑戦。壁に向かって座り、静かな時間を過ごした二日。中沢徳空さん（高崎西井小6年）は「最初は難しいと思ったけど、途中から自分と向き合う時間を楽しんだ。2日は座禅の座、ベトナムの紙を渡ったロケット作りなどを行う。（縁辺啓司）」

仁叟寺で1泊2日の体験が始まる
上毛新聞 令和7年8月21日朝刊に掲載



写真は、昨年8月 第42回「子供達の集い」の様子 県内外から20名が参加、4ヶ寺の協力で開催されました



梅花講 隔週水曜日 午後1時半より開催



華道教室 隔週土曜日 午後1時半より開催



ヨガ教室 毎月最終土曜日 午後4時より開催



法灯五百年 随意会別格地

仁 叟 寺

〒370-2123 群馬県高崎市吉井町神保1295
TEL.027-387-3080 FAX.027-387-8766
e-mail: jinsouji@dan.wind.ne.jp

花と歴史と文化財の寺 仁叟寺
URL: <https://jinsouji.net/>
公式 Youtube、公式 Facebook あります



「令和8年（2026）仁叟寺カレンダー」より抜粋

仁叟寺坐禅会は、平成14年より欠かさず続いています毎週水曜日午後7時よりの定例坐禅会があり、ほか随時に各団体組織での参禅会があります。コロナ禍により参禅会をされる団体は減少しましたが、社会活動の回復の兆しと同じく徐々に坐禅会も増加傾向にあります。特に昨年は、地元吉井地区の奉仕団体吉井ライオンズクラブが中心となり富岡及び碓井安中ライオンズクラブと合同の研修参禅会等、各種企業団体組織の坐禅会が修行されました。

また夏休み恒例の子供禅の集いも昨年で42回を数えました。本年も夏休み期間中に開催予定ですので、小学生3年～6年生の児童の参加を募集いたします。是非、お声掛けください。

仁叟寺梅花講（御詠歌）は、隔週水曜日午後1時30分より稽古があり、寺族である渡辺恵津子梅花流一級詠範が指導しています。現在講員さんは20名ほどで、仁叟寺龍源寺の行事はもちろん県大会や全国大会等、精力的に活動しています。老若男女問わず入講を歓迎しております。

仁叟寺ヨガ教室は、毎月最終土曜日の午後4時より約一時間、本堂にて開催しています。令和元年秋より始まり、講師はヨガインストラクターのMINAMI先生。参加費500円とヨガマットまたはバスタオル1枚で参加でき、初心者も大歓迎です。

仁叟寺華道教室は、隔週土曜日午後1時半に随時開かれています。華道流派は草月流で、梅花講と同じく寺族である渡辺恵津子師範が指導しています。

各々興味関心のある方は、当寺までお問い合わせの上、ご参加ください。

終戦80年 学童疎開記念碑 除幕式報告

大正洋戦末期の1944〜45年、群馬県高崎市の曹洞宗仁叟寺では、東京都北区の二つの国民学校から疎開してきた約

学童疎開寮閉校80年 戦争の記憶、未来へ

群馬・高崎の仁叟寺、記念碑建立



除幕された記念碑の前で思いを語る渡辺啓司住職

90人の学童らが集団生活の供養法要と記念碑の除幕を遂げていた。終戦から80年の節目を迎えた今年、同寺は学童疎開の歴史を後世に伝えるとともに、戦争の惨禍を二度と繰り返さない誓いを新たにするため、学童疎開80年記念碑を建立した。同寺は10月31日、渡辺啓司住職を導師に戦没者白は平和を象徴している。文集に

は渡辺石橋住職(当時)への感謝の言葉や、離れへて暮らす同級生の思いがこめられている。この文集は学童疎開関連文書として他に例を見ない貴重な資料と評価されている。2002年には最初で最後の学童疎開学寮同窓会も開かれた。渡辺住職は「初めて文集を読んだ時、涙が出た。貧しく自由な中でも子供たちはしっかりと考えた」と語り、当時の疎開していた方々への思いがこめられている。この文集は後世に伝えるべき大切なものだと話した。(奥野悠)



戦後80年 学童疎開の記録刻む

高崎 仁叟寺、碑の除幕式
戦中の記憶を伝承しようと、学童疎開を受け入れていた高崎市吉井町神保の仁叟寺は31日、80年前の同

き込む新しい形を注目している」と述べた。フォーラムの司理人JINSを展覧するシンスポールディングス(同市の田中CEOと木原誠一衆院議員は、新しい企業城下町構想の重要性を訴えた。まちづくりに尽力する田中さんは地域活性化の火種をつくるには志と情熱と資本が必要だと「志と情熱があるのにお金がない場合、たとえ民であっても公共に資する活動であれば国が直接お金を入れるぐらいのダイナミズムがあってもいい」と提言。「地域創生のモデルを前橋からつくる。皆さんに刺激を持ってもらい日本全国が元気にな



学童疎開の碑を除幕する渡辺住職(右)ら

とだけでなく、地域貢献が破産前首相が前橋市内で講演した。フォーラムに先立ち、石

ことを訴えた。(前原久美代、斉藤弘伸)

同寺には1944年8月から45年10月にかけて、学童79人と教員2人、寮母3人、事務員3人の計87人が疎開した。最初に東京都王子区区立淵野上国民学校(現在の東京都北区)で過ごし、45年4月からは同区の柳田国民学校(柳田小)の子どもが本堂で寝食を共にした。碑には「思慕と記憶」とあり、

学童がさまざまな思いを抱き、さまざまな涙を流しながら暮らしていた事実を文字に込めた。同寺で暮らした文書が45年10月につづった文集では、過酷な状況でも寺で暮らした感謝の気持ちが多数書かれていた。渡辺啓司住職(右)は「文書に母に会えぬ寂しいけど、母の期待に応えようと思ってくらした。しっかりと思いを暮らした。他に対する思いが

本堂で物故者の供養の後、境内で除幕式を執り行った。同寺の総代長、矢島正義さん(82)は「同町下黒平は、戦後80年の節目に後世に伝わる碑ができて良かった。親元を離れた子どもが、この寺で暮らしたことが語り継がれる」と話していた。(関坂典生)

- ◎上毛新聞社会面記事 (十一月一日付)
- ◎中外日報記事 (十一月八日付)
- ◎除幕式集合写真

昨年10月31日、仁叟寺疎開学寮が閉校して丁度80年の節目の日に、後世に歴史を伝える疎開学童記念碑が仁叟寺境内に建立されました。

施工・和島石材工業株式会社

令和八年 年回数表

一周忌	令和七年	二十三回忌	平成十六年
三回忌	令和六年	二十七回忌	平成十二年
七回忌	令和二年	三十三回忌	平成六年
十三回忌	平成二十六年	五十回忌	昭和五十二年
十七回忌	平成二十二年	百回忌	昭和二年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。
 ※2 該当檀信徒各家には、封書にて通知が届きます。(但し、五十回忌・百回忌を除く)

龍源寺「聞法の集い」報告

曹洞宗群馬県宗務所第14教区及び同護持会主催の「聞法の集い」が、昨年10月2日午後龍源寺本堂にて開催されました。特派布教師は、管長猯下御代理として長野県興禅寺住職北村学爾老師がおつとめくださいました。

梅花講詠讃歌を取り入れた開講式では、会場主であり教区長でもある渡辺龍道龍源寺住職が導師をつとめました。当日は、教区御寺院様15名、龍源寺総代世話人をはじめとする檀信徒、仁叟寺総代会、梅花講及び参禅会の皆様方45名、合わせて60名ほどの善男善女にご参集いただき、盛会裏に開催することが出来ました。

集いは本年も教区内にて開催を予定していますので、志ある方は是非、足をお運びください。

平成三十一年四月に落慶した龍源寺新本堂にて特派布教師による「聞法の集い」が修行されました



五輪桜案内板 意匠登録



仁叟寺五輪桜の案内説明板は、昨年春に五輪桜前に設置され、上毛新聞紙面でも取り上げられました。考案者は、当山副住職とハブス代表栗原俊文氏で、昨年秋に意匠登録がなされました。

耐久性に優れたステンレス製の案内看板で、QRコードを読み込むと、対象物の説明や映像等が動画で視聴することができます。桜の時季ではなくても様子が見られ、また解説を聞くことができます。

桜のほか除夜の鐘や節分会等の伝統行事でも応用が可能で、仁叟寺以外でも活用ができるものと思います。お問合せ下さい。

意匠登録証と五輪桜案内説明板

山内環境美化報告 塗装、畳替、竹林整備等

当山では、主に新盆供養の浄財で本堂や会館等の畳替を範囲を決めて交代で行っております。一昨年は本堂大間内、昨年は会館北側を新たに張り替えました。また文殊堂舞台の欄干はじめ各建築物の塗装、塗り替え等を行いました。ほか竹林を繁殖力の強い竹を放置することなく、整備し活かす作業を依頼いたしました。

いずれも一過性の作業ではなく、それぞれ時期が参りましたら手を加えて継続してつとめております。施工は檀信徒である榊原畳店、三木塗装店、鈴木昌邦様に依頼。よき整備がなされましたこと、感謝申し上げます。



欣光閣の畳替

文殊堂欄干塗装

大般若会大施食会 箏曲演奏会

仁叟寺恒例の大般若会大施食会法要、本年は3月8日日曜日午後1時より修行いたします。式に先立ち清興として一昨年、住職の実弟であり東洋大学名誉教授の渡辺章悟先生による大般若経についての講演会、昨年は、青い眼をした禅僧・石川県羽咋市観音寺住職で大本山總持寺役寮ゲッペルト昭元老師にご法話を頂戴いたしました。

本年は、日本伝統の楽器である琴、箏曲演奏会を企画いたしました。演奏者は、地元高崎市出身で東京藝術大学音楽科をご卒業され、世界で活躍される清水紗登美先生です。演奏会等で活動されるほか、現在は東京農業大学第二高等学校と同中等部にて箏曲部講師をつとめ後進を指導。和楽器だけでなく、声楽や西洋楽器等との共演も積極的に取り入れ、箏の魅力と可能性を広められるよう模索し、国内外で演奏活動を行っております。

またとない機会であり、江戸時代から続く大般若会、施食供養会法要の当山恒例伝統行事とあわせ、足をお運び、耳を傾けていただければ幸いです。

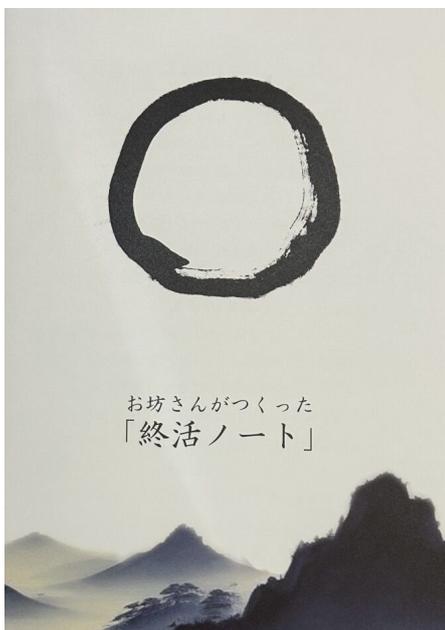


演奏者・清水紗登美先生

本年**2月3日（火）**の仁叟寺大節分会は、節分祈禱会のほか恒例の豆撒きを行う予定です。ちびっ子節分会も行い、キッチンカーの出店、演奏会等も予定しています。地域の伝統行事へ、奮ってのご参加をお待ちしております。合掌



「お坊さんが作った終活ノート」頒布について



仁叟寺檀信徒はじめ有縁の皆様方に、もしもの時に備えて、「お坊さんがつくった終活ノート」（エンディングノート）を、お配りいたしました。同冊子は、曹洞宗島根県の若手僧侶の「石見曹洞宗青年会」の会員諸師が、作成いたしました。微に入り細に入り、内容も充実しており、ご活用いただければ幸いです。

現在、少子高齢化の波と核家族化が一気に進み、更にコロナ禍の影響の下、地域の行事も縮小や廃止となり、人と人とのつながりが非常に希薄になってしまいつつあります。

その中で、忘れてはいけない方、生涯を全うされた方に対し、敬意を払うことは、後に遺された方の大切なおつとめであります。この終活ノートを、ご家族の方々と共に、もしもの時に備え、活かしていただきたく、関係各位に頒布させていただきました。是非ご活用ください。

里山再生事業 もみじ山仁叟寺古墳公園整備



⑤ 八月三日作業集合写真



⑥ 九月二十八日作業集合写真

仁叟寺の竹林を整備し、地元と檀信徒の方々のご協力をもって行っております高崎市の補助事業、里山元気再生事業は平成30年度末で期間満了となりました。伐採した竹林は既に7,000本以上。その跡地に、モミジやサクラおよそ300本を植樹し、小沢昇様と矢島正義総代長により参道脇に多くの山野草や福寿草のほか、多くの方々より寄贈された紫陽花を植栽。ほか森久総代人より水仙球根とムラサキツツジを多数頂戴し、山頂付近に植え、彼岸花やツツジ等も有志の皆様方よりいただき、それぞれ植栽いたしました。

高崎市補助事業は既に終了いたしました。引き続き昨年も6月1日、8月3日、9月28日の合計3回に亘り、総代人世話人有志にご協力いただき、下草刈りや篠竹刈り等の作業を行い、共に汗を流しました。

当地には、歴史を物語る古墳群も遺されており、令和5年夏には高崎市史跡に指定されました。境内全景や上毛三山、吉井市街等が見渡せる風光明媚な場所。関係各位のご尽力のもと、里山再生「仁叟寺もみじ山歴史古墳公園」に向けた整備が、着々と進めております。引き続きのご理解ご協力をお願い申し上げます。

里山再生事業 ～モミジ植樹を進めます～



本年は特に春先を目途に、伐採したアカシヤの跡地にモミジ植樹を計画します。モミジは小沢昇様、鈴木昌邦様が子株から養生し、植樹に備えています。

また里山もみじ山も、シカ害もありましたが、200株が順調に生長し、紅葉が綺麗に映えるまでになりました。



植樹して約10年経過したモミジ（山頂付近より撮影）

寺院ボランティア、お手伝い募集

仁叟寺の境内及び里山は、加藤壯士様、桑子富夫様、小林牧男様はじめ檀信徒有志の多くの方々によって手入れが施されております。もちろん造園等の専門業者もご協力いただいております。昨今の少子高齢化の影響により、以前と同様の事がままならない状況でもあり、もし志ある方がおられましたら、当山環境美化の為、お手伝いを募集いたします。専門知識がなくても結構です。是非、当山まで、お問い合わせください。

自らを洲とする ～東日本大震災被災地支援～



松本センター長を囲んで（一昨年の奉仕作業）

追悼 松本光雄 福島県南相馬市ボランティア活動センター所長

毎年恒例の行事として、およそ15年間続けて参りました東日本大震災慰霊とボランティア活動ですが、昨年をもちまして一つの区切りを付けさせていただきました。

これまで活動してこれたのも、受け入れ先寺院である南相馬市新祥寺野田精頭住職、奉仕活動先として南相馬市ボランティア活動センター松本光雄所長のお陰です。

松本光雄センター長は、自衛隊退官後、東日本大震災被災者と被災地の為に活動をしたという一念でもって、神奈川県より福島県に移住。私財を投げ打ち、活動センターを南相馬市小高町に立ち上げました。

東日本大震災発生後、何度も慰霊及びボランティア活動をいたしました。南相馬市原町新祥寺副住職（当時）野田精頭老師に窓口になって貰い、被災地に必要な活動や物資等のご教示をいただきました。野田老師と副住職は、大本山總持寺修行時代から続く法友であり、その活動を通じ、松本光雄センター長とも、佳きご縁を結ぶことが出来ました。

松本センター長は、残念乍ら昨年9月に逝去され、南相馬市ボランティア活動センターも活動休止となりました。当方が群馬県曹洞宗青年会会長代に曹洞宗福島県青年会様と協力し、両県有志50名以上でのボランティア活動をさせていただいたことや、所長の熱い思いを伺ったこと、震災以降年に一度群馬県福島県有志若手宗侶と共に汗を流したこと、改めて感謝申し上げます。有難うございました。15年近くに亘る徳行に敬意を表し、ご冥福をお祈りいたします。合掌

絵画寄進報告（町田洋二先生、齋藤彌平先生）

檀信徒で群馬大学と上武大学で教授をつとめられ、画家及び教育者として著名な町田洋二翁（彩光院寿航洋道居士位）が、昨春、行年103歳でご逝去されました。ご遺族より、翁の作品3点が菩提寺仁叟寺に寄贈されました。

また齋藤悦男総代人のご尊父であり、画家で吉井中央中学校初代校長等を歴任された齋藤彌平翁（齋雲院教傳彌光居士位）の絵画は、今春に龍源寺本堂に寄進される予定です。既に翁の作品は、遺作のほか応接間天井絵、絵画数点が納められております。

この度の浄行に感謝申し上げます。



上二点
町田洋二先生作品
右下）
齋藤彌平先生作品



総代長 新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

昨年は、アメリカ大統領が代わり、貿易赤字が激増しているとのことで、同盟国等に考えられないほどの関税をかけました。世界中の国が、その対応に追われ、満足はしないけれど、何とか落ち着きを取り戻すところまで来たようです。しかし世界中が不安定な時に残念なことです。

日本では石破首相から、高市早苗首相に代わりました。我国で初めての女性首相です。

高市首相は、タカ派といわれた議員でしたが、日本のことを考え上手に交渉し、支持率が非常に高くなっています。この状態が続いてくれることを願っています。

昨年10月31日、学童疎開の記録を刻む記念碑が、仁叟寺に建立されました。本堂で物故者の供養の後、境内で除幕式が執り行われました。大本山總持寺監院、仁叟寺ご住職より碑には「思慕」と記され、学童が色々な思いを抱き、様々な人を慕いながら暮らしていた事実を文字に込め、「思慕」と揮毫したというお話をいただきました。更に、仁叟寺で暮らしていた学童が、昭和20年10月に綴った作文文集では、過酷な状況下でも、寺の暮らしに感謝する内容が書かれていました。また、「父母に会えず寂しいけれど、両親の期

待に應えようと頑張った」、

「しっかりとした思いで暮らし、他に対する思いやりが備わっていった」と締めくくりました。

戦後八十年の節目に、後世に伝えられる碑ができ、親元を離れた子供たちが、この仁叟寺で暮らしていたことが、更に語り継がれていくものと思われま

す。最後に、仁叟寺里山が、役員さんの草刈り等の作業により、素晴らしい里山になってまいりました。これからも皆様のご協力を、宜しくお願いいたします。



筆者・矢島正義 総代長
元群馬県宗務所護持会長

仁叟寺総代会

総代長	矢島正義	顧問	新井徳衛
酒井範明	森久		向井敏昭
齋藤悦男	篠崎正道		神宮光信
酒井忠夫	三木文明		井上洋

檀信徒の皆様へ

住所等の変更がありましたら、必ず菩提寺までご連絡を下さいますよう、お願いいたします。

行雲流水（編集後記）

編集人 住職代行 渡辺龍道

新年明けましておめでとうございます。

寺報「山雲水月」も本号で71号となりました。当山のお伝えしたい様々な事柄を広報しています。紙面に何かご提案ある方がおられましたら、忌憚ないご意見を宜しくお願いいたします。

さて当方が住職をつとめる龍源寺の人災も、昨春の被災墓所合同開眼会法要で区切りがつかしました。また昨秋には、被告人らの財産隠匿行為について、検察より起訴猶予での不起訴との結果となりました。事件発生より7年以上かかりましたが、墓地の復旧も終わり、全て終結となりましたこと、茲に報告申し上げます。合掌（龍）

番犬キナコ♀

